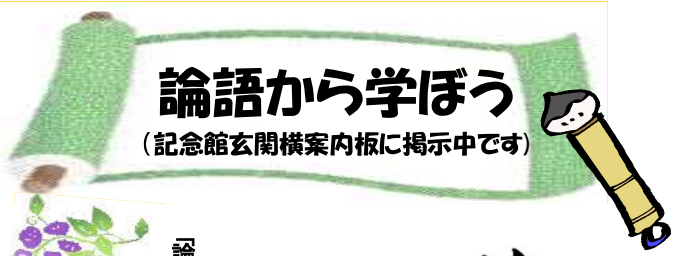


よえもん

※「よえもん」とは、中江藤樹へ親しみを込めて呼ぶ通称のことです。



論語から学ぼう

(記念館玄関横案内板に掲示中です)

《 第83号 》 (2023年2月発行)

令和4年度後期企画展
「中江藤樹と脩身堂」より

シリーズ
よえもん



「論語」里仁第四之四

書 淵田瑞穂さん

苟に仁に志せば
悪しきこと無し

朱子学を学ぶことにつとめた全国の大名たちは、学校を建て、学者を招いて、武士やその子どもたちの教育に力を入れました。この地、大溝の8代目の殿様・分部光実、近江の国のなかで一番早く、天明5年(1785年)大溝藩の学校「脩身堂」をつくりました。

大溝藩の武士のなかには、藤樹先生や藤樹先生の3男・常省先生に学んだ武士の子孫もたくさんいたので、学問を学ぶ気持ちが強くなりました。「脩身堂」で学ぶ武士たちと、藤樹先生の徳を敬慕して「藤樹書院」を訪れる人々が交流し、勉学のさかんな地となりました。「脩身堂」の学びにも多くの影響を与えた藤樹先生の教えは、今もなおこの地、高島に引き継がれています。

脩身堂の初代文芸奉行(教授)となった中村徳勝の父・季貫は、常省先生に学び、その父の伯父・仲直は藤樹先生に学んでいます。

「少しでも相手の立場になって思いやる気持ちがあるならば、悪いことをしたり、企んだりはいけません。」という意味です。

藤樹先生の「五事を正す」のおしえにある、貌(顔つき)言(言葉づかい)視(まなざし)聴(よく聞く)患(思いやり)の5つは、どれも相手の立場になって考えたり行動することをあらわしています。

五事を正して、「良知(だれもが持っている美しい心)」がくもらないように努力することは、悪い行いを退けて、毎日の良い行いにつながっていくことでしょう。



大溝藩校「脩身堂」扁額 分部光実 書



編集雑感 新着情報 etc

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいいたします。

さて、1年で1番短い3学期が始まりました。新型コロナウイルスの感染拡大で様々な学びや活動の機会が少なくなっていたようですが、市内の小中学校でも少しずつ元の学校生活にもどり始めようとしているそうですね。まだまだ、感染が広がっていて休園や休校となっていたところもありますが、できる感染予防に心がけ「できるはんい」で学びを積み重ねてほしいと願います。記念館でも新年を迎えました。今年は冬とは思えないほどあたたかかったのですが、下旬から急に冷え込み、積雪よりも気温が低い状況が続きました。そんなことからか記念館を訪れる方も少ないのですが、訪れた方々とゆっくり時間をとって藤樹先生や中国の学問についてお話ができています。意外なことに、記念館に来られるお客さんは高島市以外の方、それも滋賀県以外の方が多いです。気候や風土の異なった土地から来られる方々とお話していると、一つの物事でも、その見方や考え方、とらえ方が本当に違うんだなと学ばせてもらっています。学校や習い事、塾などで多くの友達と交流する機会があることと思います。「自分のとらえ方、考え方」も大切にしながら「人のとらえ方、考え方」からも謙虚に学んでほしいと願います。

近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL:FAX (0740)-32-0330